

由農

今、変化する深谷の

特集 今、変化する深谷の農



埼玉県農業協同組合
今井 一 代表理事組合長

人手のかかる『収穫』

農業課題の一例ですが、収穫作業は限られた時期に済ませなければならず、人手がかかる作業です。また、作物によっては、日が昇る前から作業が必要な上、機械化が進んでいないものも多いので、大規模農家ほど課題としているのではないのでしょうか。

特に、農業は、天気や気温など

『技術』と『経験』

深谷が質の良い農産物を安定して出荷し、全国でもトップクラスの生産量を誇るのには、市内農家の皆さんの技術と経験に支えられています。



農業のまち深谷もピンチ？

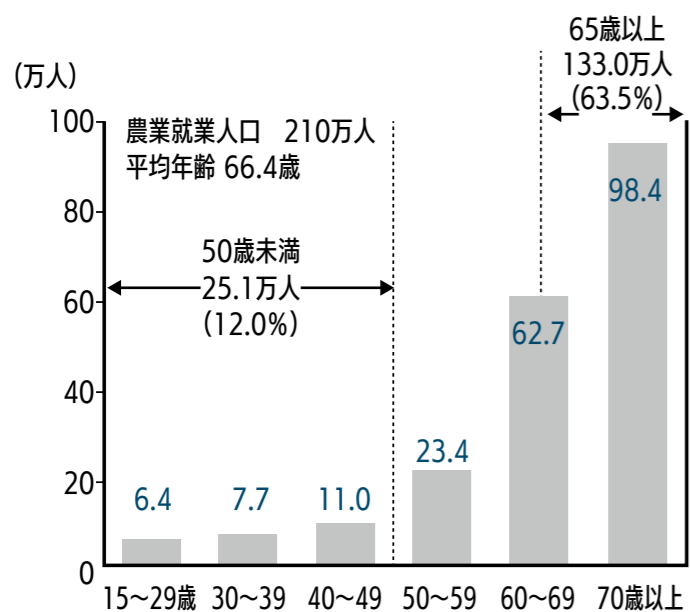
近頃の『農業事情』

自然を相手にする仕事であるからこそ、熟練した技術や長年の経験が求められるてきます。しかし、次第にこれまでの農業を維持することが難しくなっています。

深谷も抱える『農業課題』

平成27年に実施された国の調査

農業就業人口の年齢構成 (平成27年)



資料:「2015年農林業センサス」

▲全国の農業就業人口を表したグラフ。農業に携わる人の多くが、60歳以上となっており、全体的に高齢化が進んでいます。また、若手の農業者の全体に占める割合は小さくなっています。

AgriTech (アグリテック)

農業を意味する『agriculture (アグリカルチャー)』と技術を意味する『technology (テクノロジー)』を組み合わせた造語で、これまでの農業課題を最新の技術で解決する新しい技術分野。



国内トップクラス！ 全国に誇る深谷の農業

『深谷II野菜』 ブランドイメージを 作り出す深谷の農業

全国的に有名なブランド野菜『深谷ねぎ』をはじめ、さまざまな野菜や花き、畜産物に至るまで、深谷は幅広く全国に向けて出荷しています。特に野菜に注目すると、

全国に誇る財産『深谷の農業』



ふかや農業協同組合
石澤 清治 代表理事組合長

農業の大切さについて、多くの人が感じる『食』の分野だけでなく、今後、美しい自然や豊かな畑、きれいな水・空気など、農業がもたらす多面的な機能が評価される時代がやってくるのと考えています。全国に誇れる財産、『深谷の農業』を全国の消費者に伝えていきたいですね。

農業産出額【野菜のみ】

単位: 1,000万円

1位	茨城県 鉾田市	4,235
2位	愛知県 田原市	3,396
3位	熊本県 八代市	2,684
4位	愛知県 豊橋市	2,617
5位	熊本県 熊本市	2,396
6位	埼玉県 深谷市	2,144
7位	茨城県 八千代市	2,122
8位	千葉県 旭市	1,964
9位	千葉県 銚子市	1,928
10位	宮崎県 宮崎市	1,846

(出典: e-Stat 平成29年 全国の市町村別農業産出額(推計) 統計表より)

農業産出額は全国約1700市区町村の中で6位と全国でも有数の野菜生産地となっています。また、全国の自治体の『魅力度』や『認知度』などを毎年調査している『地域ブランド調査2018』によると、『農林水産業が盛んなまち』として、深谷市は県内ではトップ、全国では32位と上位に位置しています。このように、農業は、深谷市の基幹となる産業としてだけでなく、深谷のブランドイメージを形作っている要素としても、欠かすことのできない重要なものになっています。

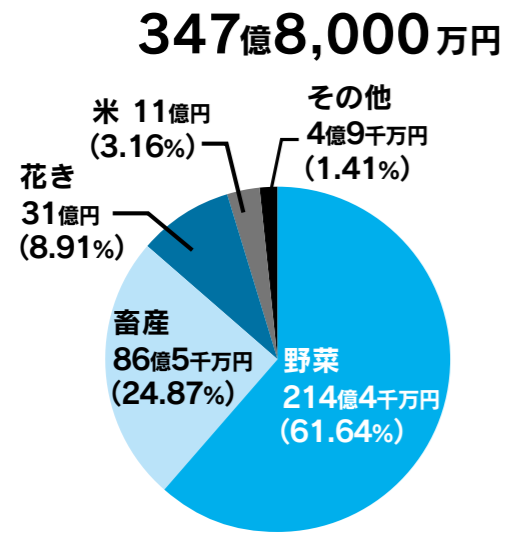
『農業課題』は 他人事ではない？ 影響は消費者にも・

「自分は農業をやっていないから、農業の人手不足なんて、関係ない」と、思いかたもいるかもしれませんが、実は、私たちの生活に深く関わる大切な問題になっています。

普段、スーパーや直売所において安全な肉や野菜をいつでも買うことができるのは、多くの生産者が、常に安定した品質の商品を供給し続けているからです。しかし、ベテランの担い手がこのまま減り続けると農産物の品質が不安定になったり、価格が高騰したりするだけでなく、安定的に供給することすらできなくなってしまうかもしれません。これまでと同じように、安全・安心でおいしい農産物を食べるためには、人手不足や経験不足といった農業課題を解決していかなければなりません。

特集 今、変化する深谷の農

平成29年
深谷市の農業産出額



(出典：農林水産省HP
平成29年 埼玉県の市町村別農業産出額 (推計) より)

▲平成29年の農業算出額とその主な内訳を表したグラフ。野菜が市内農業産出額の半分以上を占めているほか、畜産物、ユリやチューリップを始めとした花き類についても深谷市の主な農産物となっています。



業以外の分野にもメリットが広がる取り組みとしていきます。『やっぱり深谷産だね』ファンを生み出し続ける深谷の農業

平成29年の深谷市全体の農業算出額は347億8千万円。全国でも上位のこの産出額は『深谷産』を求めて農産物を購入する数多くのファンがいることの証明でもあり、道の駅や農産物直売所にも、新鮮な深谷の農産物を求めて、毎日たくさんのお客様があります。

今後、さらに深谷の農作物のファンを増やすため、アグリテックの取り組みと並行して『野菜』をメインに、市全体を野菜のテーマパークのように見立て、農業のさまざまな楽しみ方ができるようなまちづくりも進めていきます。農業という貴重な地域資源を持つ深谷だからこそ出せる魅力、他の地域にはできない「コト」を発信していきます。

Interview 昨年来場者80万人超 花園農産物直売所の来客者に聞きました



吉見町からお越しの田中さん

キュウリ・ナス・オクラを買いました

地元でも野菜は買えますが、こちらに来た時には直売所を見に来ています。県内に住む場合は旬になると『深谷ねぎ』を買いくることもありますよ。



坂戸市からお越しの加藤さん

観光帰りに直売所に寄りました

観光帰りに買い物にきました。今日買ったのは、ナス・トマトなどの夏野菜ですね。こちらの方に遊びに来た時には、よく寄っていますよ。



『アグリテック』を
『深谷』に集積！
新たな企業を市内に誘致

『農業』を軸とした
新たな企業の誘致

『アグリテック』を深谷に集めるのは、農業課題の解決だけを目指すのではなく、成長が期待される産業や新しい産業を生み出す革新的な技術、地域の産業特性などを踏まえた新たな企業を市内

に呼び込んでいくことも目的としています。

これまでの、企業誘致の取り組みと最も異なるのは、深谷市の強みである農業に焦点を絞って、取り組みを進めることです。その上で、アグリテックという新たな分野を市内に取り入れ、農業の稼ぐ力と魅力をさらに高め、農業と農



農業現場に新技術を！
『農業コンテスト』を
深谷市が開催

農業と最新技術を融合
『アグリテック』

深谷市では、農業の担い手不足や耕作放棄地の増加などさまざまな『農業課題』を解決するため、今年度から新たに『アグリテック』

の導入を進めています。

アグリテックとは、農業を意味する『Agriculture (アグリカルチャー)』と技術を意味する『Technology (テクノロジー)』を組み合わせた造語で、農業課題を農業とは直接関係のない『非農業』の分野と結びつけながら、課題解決を進め、農作業の負担軽減にもつなげていくものです。全国でも技術の導入や実験が始まり、低コスト化や作業時間の縮減といった効果を挙げています。

アグリテックを取り入れた
『農業コンテスト』開催

アグリテック導入の第一歩として、市内の農業課題の解決を目指した農業コンテスト『DEEP VALLEY Agritech Award 2019』を開催し、8月末日まで全国から募集を行いました。これは、深谷市が抱える農業課



花園農業協同組合
松本 博道 代表理事組合長

遊休農地をチャレンジの場に

担い手不足や耕作放棄地などの問題もある反面、直売所があり消費者の反応を感じ取れるため新たな作物や技術にチャレンジする雰囲気も出ています。新たな取り組みとなる『アグリテック』ですが、遊休農地などを活用しながら試し、少しずつでも現場に導入できるといいですね。

農業に関する技術を市内へ！
『アグリテック集積都市宣言
DEEP VALLEY』を宣言

6月27日に都内で、深谷市のアグリテックに関する基本的な姿勢や取り組みに関して『アグリテック集積都市宣言 DEEP VALLEY』を宣言しました。詳しい取り組み内容は、市ホームページをご覧ください。



題を解決する技術(アグリテック)を表彰する取り組みで、実証実験を行うことのできる農場の提供や出資などを通じて深谷市と多様な担い手が連携しながら全力で受賞者を支援し、深谷市さらには日本全国の農業課題の解決に向けて展開していきけるように支援します。

今回実施したコンテストは、書類審査やプレゼン審査を経て、10月末に結果を発表し、その後事業化に向けた検討を始めていきます。

※DEEP VALLEYは米国にあるIT技術の集積地『シリコンバレー』をイメージし、『深谷』とかけ、深い(DEEP)谷(VALLEY)を英訳した愛称。

DEEP VALLEY
Agritech Award 2019
最終審査・審査発表
問い合わせ
産業ブランド推進室 ☎577 - 3819)
農業関係者や企業はもちろん、どなたでも入場可能です。
とき 10月31日(休)午前11時～
ところ 埼玉グランドホテル深谷



▲市内農業・商工団体や高等教育機関、企業とともに記者発表を行いました。今後、密接に連携しながらアグリテックという新しい取り組みに臨んでいきます。